

主陵會々報

発行所
 岩手医科大学主陵会
 〒020-8505盛岡市内丸19の1
 Tel 019 (651) 5111 番
 Fax 019 (624) 8380 番
 URL <http://www.keiryokai.gr.jp>
 題字 三田定則 先生書
 発行人 石川 育成
 編集人 酒井 明夫
 印刷所 山口北州印刷

10 月 号

目 次

主陵会会長ご挨拶……………	1	主陵会本部だより……………	19
理事長ご挨拶……………	3	支部だより……………	31
学長ご挨拶……………	5	医学部同窓会だより……………	32
東日本大震災に伴う主陵会の対応……………	7	歯学部同窓会だより……………	47
平成二十四年度若手医科大学入試概要……………	9	トビックス……………	63
平成二十三年産院急病研究会研究助成・要覧……………	14	学生だより……………	68
岩手医科大学総合整備事業要覧状況報告……………	18	会員逝去・お祝い……………	72



海 夕日 彼方へ

故佐藤信博先生 (医三三期) 撮影



主陵会会長ご挨拶

主陵会会長 石川 育成

開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。暑い日が続いておりましたが、今日は少ししのぎやすい気温でございます。先生方には主陵会代議員会並びに総会にご出席いただき誠にありがとうございます。

によって、全ての日程が大幅な変更を余儀なくされ、先生方には大変ご迷惑をおかけいたしました。

また、入学式も昨年度よりかなりおくれ四月二十八日に挙行し、新入生やご父兄の皆様にもご心配をおかけする結果となりました。しかし、その遅れを十分に取り戻して円滑な教育ができたと報告をいただいております。

せっかくの機会でございますから、近々の主な行事についてご報告をいたします。

昨晩は、例年どおり支部長・参与会を開催いたしました。その後の懇親会では、十分に意見交換ができ大変有意義だったと思っております。

今年は東日本大震災という大きな災害

今年一月二十七日に附属病院移転用地

として、矢巾キャンパスに隣接したところに五万六千坪の用地を取得いたしました。売買契約調印式並びに起工式には、私も圭陵会を代表して出席いたしました。

また、三月八日に総合移転整備計画第二次事業の新築落成式を行いました。医学部、歯学部ともに四年生までの教育を、この矢巾キャンパスで実施することとなります。ご存じのように医学部、歯学部、薬学部が同じキャンパスで教育を行えるのは、日本で初めてのことでございます。以上のように総合移転整備計画も着々と進捗しておりますことをまずもってご報告いたします。

その三日後に東日本大震災が発生いたしました。

大学といたしましたは、岩手県当局及び岩手県医師会と協力し、一丸となって被災地の医療支援にかかわってまいりました。全国からの派遣DMAT及びJM

ATの先生方のご協力に対し、心より感

謝を申し上げます。

派遣JMATも七月三十一日ではほぼ撤収をいたしました。それから、JMAT岩手の出番でありまして、長丁場になることが予想されます。地元ならではの態勢で、破壊された沿岸地区の地域医療の立て直しに各医療関係団体と協力して努力しているところでございます。

今回の大震災に伴って圭陵会としては、早速義援金募集を開始いたしました。多くの会員のご厚意に心より感謝を申し上げます。設置いたしました委員会の決定に従いまして、早速第一回目として、半壊以上の被災会員にお見舞い金を送らせていただきました。また、亡くなられた会員は九名、行方不明一名であり、診療所並びに自宅等の被災を含めると五百九十二名に上ります。このことをあわせて報告いたします。

大学といたしましたは、岩手県当局及び岩手県医師会と協力し、一丸となって被災地の医療支援にかかわってまいりました。全国からの派遣DMAT及びJM

ATの先生方のご協力に対し、心より感謝を申し上げます。

動に格段のご協力を賜りますようお願いいたします。

なお、体調をいささか崩しておられた大堀理事長先生でございますが、最近是非常に経過も良く、元気でございます。本日は、全国から多くの会員の先生方がおいでになるとのことから、出席してご挨拶を申し上げたいということで、来賓として後刻出席することになっております。

以上申し上げます、挨拶といたします。本日はよろしくお願い申し上げます。

(平成二十三年度圭陵会代議員会 会長 挨拶より)



ご挨拶

学校法人岩手医科大学

理事長 大堀 勉

皆様には非常にお忙しいところをこの盛岡の地までお越しいただきまして、まことにありがとうございます。

お会いする先生方に「元気だな」と言われますが、元気なのは顔だけでありまして、長い時間歩けない状態ではありますが、皆様に直接お会いをして、いろんな意味で御礼を申し上げたいということで、本日は参りました。

座らせてお話しをさせていただきます。

大震災の影響により例年六月の総会が延期され本日開催となりましたが、まげて多くの皆様にご出席いただきましたこと、併せて日ごろ主陵会また大学に対しご支援をいただいておりますことにつきまして、心より感謝を申し上げます。

私が今年になって矢巾キャンパスに来ましたのは、三・四回目くらいです。毎日気持ちはここへ飛んでいるのですが、なかなか思うようにいきません。建てる前は一カ月に十回、あるいはそれ以上、この周りをぐるぐる回っております。夜中の二時、朝方、思い立つと居ても立ってもいられない、ということが三・四年前から続いておりました。

真っ暗で何も見えなくても、周りを回っていると

気持ちが悪くなりました。

見ていると一年ごとにすばらしい建物がつくれ、緑が多くなっていくことに感動をしております。皆様にもそのすばらしいキャンパスをご覧いただければありがたいな、と思っております。

私が岩手医大に戻ってきた昭和三十六年頃は、大には緑が少くないということを一番に感じ、これを何とかしよう、命の続く限りこれをやろうという気持ちでできました。

教養部にも緑を多くしようと思いましたが、なかなか思うようにいきませんでした。しかし、その気持ちはどうしても消えず、いつかは、いつかは、と思っております。

そして、そろそろ何とかしなくてはと思っている時に、岩手町から校地として岩手町川口の十万坪を無償で提供するという話があり、いただくという約束をいたしました。しかし、岩手町が全地権者から土地を譲り受けるのに十年かかりました。また、その土地は発掘調査を行わなければならないこと、そして八戸までの新幹線の延長工事に関連し大学が岩手町の地元負担金として数億円出さなければならぬこと、というような問題が起きました。

そのような中で新たに矢巾町よりキャンパス用地提供の申し入れがあり、この購入に大学の理事全員の賛成をいただきました。その後は皆様ご存じのとおり、矢巾キャンパスには薬学部ができ、今年三月には医学部・歯学部の講義棟・実習棟・研究棟などができました。そして、今年の一には病院用地を購入し、現在その敷地内にドクターヘリポートの整備を行っており、今後大学病院の建設と、次々と移転整備事業を行う予定であります。ここまで、全て順調に来ております。

それはとりもなおさず主陵会の全会員の皆様のご援助のおかげであり、そのご援助がなければ到底ここまでできることができなかったわけでありまして。このことは何回お話ししても話し足りないという私の気持ちであります。今後とも私の命の続く限り、あるいは命がなくなっても、本部地区はもちろんこの矢巾の地区を含めまして、大学の永久の大発展を祈っているということが私の偽らざる心境でありまして、その点もお酌み取りいただければ非常にありがたいと思っております。

はじめに申し上げましたが、私の念願はキャンパスに緑が欲しいということで、この矢巾キャンパス

には最初は八百本ほど、その後さらに千本ほど植樹をしました。今では緑も多くなり、少しずつ見れるようになってきたのではないかなと思います。

薬学部ができてから、五年に入るわけですが、緑多きキャンパスも着々と進行しつつある、と言ってもいいのかなと思います。この緑を多くすることは、ここにおられる皆様方の偉大なるお力により、でき上がりつつあるわけであります。

これがあと十年、二十年たったころ、私は見れないと思いますが、緑多いこの矢巾のキャンパスを見たいものだなと思っております。皆様にもそのようなつもりで今後ともご覧になっていただければ、大変ありがたいと思います。

今後、この十一万坪にいろんなものが建ってまいります。十一万坪といえますと本部地区の約十二・三倍の広さになりますが、広くなっただけ我々は狭く感じております。十何倍に広くなったはずですが、狭く感じる。変な現象であります、そのように感じます。

それは、建物を建てれば建てるほどいろんな施設設備がどんどんふえてきます。別の意味でいいますと、発展を続けていると日にちがたつにつれて施設がふえてくる、ということでも狭く感じてくるということとなり、将来はどうなるのだろうか、ということも見ることもあります。

病院はこれからでありますけれども、教育・研究・学生活動の施設は完全ではありませんが一応はそろったかなと思っております。これからどうするかは皆様方の考え次第になるのではないか、と思

ます。

皆様ご存じと思いますが、この講堂に名前をつけていただきました。「大堀記念講堂」という、とてもない名誉あるお名前をちょうだいしたわけでありまして、本来ならばまず第一に三田俊次郎先生の記念碑でも建てたいという気持ちでありましたけれども、三田俊次郎先生、三田定則先生あるいは篠田札先生の立派な胸像はできているのですが、今お話ししました記念講堂のようなものはできませんでした。

私を推薦してくださいとされたということ、私のような者の名前をつけていただくということは、これは大変光栄なことではありますが、とんでもない話でありまして、私がいただくべきものではないのですが、小川学長を中心とする理事会の皆さんの全員一致の推薦ということがありましたので、断るのが筋なのではないですが、断れないのも筋だといういろんな複雑な気持ちでありまして、とうとうお受けすることにしました。

しかし、そうになりましたからには、何とか私のできる範囲で、またさらに努力していきたいなど、それだけは申し上げておきたいと思えます。そうかといつて一人では大したことではありませんが、できるだけのことはしたいと思っております。ますますの岩手医大の大発展を一生懸命にお祈りしたい、と思っております。

私ができるように言わなくても、もう毎日、毎日が大発展の盛りでありまして、一年経つごとに私が来てびびくりするというほど本当に発展、発展を続け

ております。

さらに今後とも、皆様方のご援助と、アドバイス等いろんな応援をお願いしたいと思っております。

最後に、私はこの一年入院を経験しましたが、皆様には体を大事にしてください。一年も入院してみて体は大事だな、ということを感じました。

石川育成圭陵会長ですが、この度の大震災においては沿岸部その他被災地をどんどん回り、被災地また同窓の先生方への援助に当たられました。本当に大変な御苦労であったと思います。そのようなことができたのも、何よりも健康であったからであります。

私が入院している間にも、私より若い方を含め、多くの同窓の先生方がお亡くなりになりました。健康ほど大事なものはありません。私は不健康ばかりやってきましたから一年も入院するというようなことになりましたが、皆さんにはそのようなことのないように健康に留意して頑張ってください、あるいは働いてください、ということをくれぐれも申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。



大堀理事長先生のお許しをいただき、総会時のご挨拶をそのまま掲載させていただきました。

なお、大堀理事長先生は総会終了後、ご出席になりましたお一人お一人を、最後までお見送りになりました。



ご挨拶

岩手医科大学

学長 小川 彰

主陵会の皆様には、日頃から大学運営に對しまして大変なご支援を賜っておりますことに、厚く御礼を申し上げます。

只今の理事長先生の大変心強い、そして力強いご挨拶の中に全て入っているわけでございますが、私なりに少しお話しをさせていただきます。

今度の三月十一日の災害につきましては、主陵会会員の多くの方々がご家族ともども被災をされ、お亡くなりになりました方々もおられます。あるいは病院を流されたというようなさまざまな被害を受けたわけでございます。大学を代表いたしましてお悔やみを申し上げますとともに、お見舞いを申し上げます。

それから、主陵会として大変素早い対応をしていただきました。同窓の被災されました方々に対する義援金など、心温まる物心両面のご支援をしていただいたということに對しまして、厚く感謝を申し上げます。

大学も災害が起こった当初、本学の学生は春休みに入っていたわけですが、約二千名を超える学生の安否確認から始まりましたが、二千名の学生、また約三千名弱の職員は幸いにもご自身が被害を受けた、被災をしたという方はおりませんでした。

但し、何らかの形でご家庭が被災をされ、学納金のお支払いが難しいというような学生が百名近くおり、このような学生に對しては学納金の全額免除あ

るいは減免等々さまざまな支援を行っております。

また、三月十一日という時期は三月八日に第二次事業の落成式を終え、矢巾キャンパスも従来の倍の規模になり、内丸地区の医学部、歯学部の基礎講座がこちらに移転をしている最中で、ガソリンがない、トラックがないということで、すべての移転業務が止まりました。

一方、今年の入学生に関しましては入学者選抜が全て終わっておりますが、全国から集まってくる学生ですので引越しができないということで、約一カ月遅れの連休明けに新学期の開始を設定し、連休直前に入学式を挙行いたしました。被災をしましてこの三県あるいは東北地方は軒並み多くの大学が入学式の実施を取り止めている中、本学では入学式を実施したわけでございます。そうしましたところ、入学式の十日ほど前に文部科学省から、岩手医大は大変な中で入学式を実施するのであれば文部科学省より代表を出してご祝辞を申し上げたいというお話がございました。

大変結構なことですので、是非よろしくお願いいたしますと返事をし、文部科学省筆頭審議官にお越しいただき、文部科学大臣のご挨拶の代読をしていただきました。皆様ご存じのように、文部科学省の高等教育局が管轄する大学は、国立大学は約百、私立大学が七百有余あり、八百大学全ての入学式、卒業式で文部科学省がご挨拶をすることは不可能な

ことです。そういう意味では前例のないことだったのではないのかなと思っております。

また、大災害で被災をした中、開催した入学式に花を添えてくれたのではないかなと思っております。このように矢巾移転が一カ月ほど遅れ、新学期が連休明けの約一カ月遅れでスタートいたしました。その結果、前期の授業が八月前半まで続き学生には大変迷惑をかけましたが、秋からは普通の状況に戻れるということで大変うれしく思っております。

先程、大堀先生のお話しの中にもございましたが、この講堂のホワイエに立っていただきますと、北側の今年一月に取得した五万六千坪のC敷地が今造成中です。そこには来春にはドクターヘリの基地ができ、四月からその運用が始まります。詳しくは本日の資料に今後の附属病院移転事業のタイムスケジュールが載っておりますので、ご覧下さい。

この講堂ですが、五百人講堂です。医歯薬の連携をコンセプトに整備した新キャンパスですので、三学部の学生が共に学べる講堂がどうしても必要でした。講堂そのものは国際会議にも対応しており、同時通訳ブースも完備しております。また各席の机は一応試験ができるという規格で作っております。当初はこのような立派な講堂になる予定ではございませんでしたが、大堀先生に多大なご芳志をいただき、高規格の大講堂ができたということでございます。また、大堀先生には総合移転整備計画の先頭に立つ

てこの事業を引つ張っていただけたわけでございまして、理事会では全会一致でこの講堂を「大堀記念講堂」と名付けさせていただきます。

最後に医学部と歯学部と薬学部の状況についてお話しをさせていただきます。

医学部は一学年の定員が八十名でしたが、医師不足というを受け、現在暫定ですが百二十名の新入学生と五名の三年次編入学生の計百二十五名の定員を受け入れております。

予備校ごとに多少データは違いますが、六月末に河合塾の医学部の入学試験難易度のランキングが公表されました。一番が慶應大学で、本学は順天堂大学と共に私立医大二十九校中二番目にランクされておりまして。この様なデータは予備校によって少しずつ違いますので、これが全てということではありませんが、大変結構なことであり、大変誇りに思えることだと思っております。

歯学部に関しては、昨年定員割れを起こし大変ご心配をおかけいたしました。昨年から二年次への編入学を実施いたしましたところ、かなりの方々、そしてモチベーションのある方々に応募をいただき今年度は募集定員五十七名のところ編入学者まで入ると六十四名で、募集定員を上回る入学生を得ることができました。そういう意味では、各大学が大変苦労している中で、本学は健闘しているのではないかなと思っております。

さらに歯学部では、ハーバード大学のご協力も得ながら、抜本的な歯学部の教育改革を今スタートさせております。いずれ歯学部は大きく変わっていくだろうと思っております。どうぞご期待をいただきたいと思っております。

また、医学部、歯学部の基礎講座にしましては、統合基礎講座ということ、従来の医学部、歯学部講座を統合いたしました。医科解剖、歯科解剖、医科生理、歯科生理という医科・歯科講座は一切なく

なり、岩手医科大学講座としてその中に医も歯も入っていただくというような形で大変革を行いました。

薬学部に関しては、まだ完成年度に達していないことから、あと一年半で大学院を創り、そしてこれは医歯薬統合大学院に昇格させようということ、準備を進めており、来年の六月には薬学部の大学院設置の申請書を出さなければならぬ状況です。さて、薬学部も私立の薬学部が全国で大変な定員割れを起こしており、東北地方でも約半数の大学が定員割れとなり、また全国でも三分の一から二分の一の大学が定員割れを起こしております。

医学部、歯学部でも行われておりますが、いわゆる講義中心の教育から臨床実習教育に変わる四年生から五年生に上がる時、全国共用試験というものがありません。全国の多くの私立大学薬学部ではこの試験の合格率を上げるため留年をさせていると伺っております。本学では二井薬学部長初め薬学部の先生方の変なご努力で、特に全国共用試験の対策として留年をさせるというようには行っていません。中、今年の全国共用試験の合格率は一〇〇%でした。そういう意味では、全国の中でも誇れる大学であると考えております。いずれあと一年半たちますと国家試験が待っており、国家試験の合格率も今後の大きな問題となっております。

それだけではございません。医学部、歯学部では医師あるいは歯科医師、研究者への道しかりませんが、薬学部卒業生の進路は広く、行政また企業、病院あるいは薬局で働くというさまざまな就職の方向性があります。近年、大学卒の就職が厳しさを増し、薬学部卒業生も例外ではありません。

あと一年半で本学の薬学部の卒業生が出ます。そこで、ここにいらっしゃる同窓の主陵会の代議員の先生方にお願いがございます。先生方の地元の病院、医院、また近くの薬局等にお声をかけて頂き本学出

身者を一人でも多く採用していただく様なご協力をお願いを申し上げます。

今日は、学生が今夏休み中でこのキャンパスモジュールに余り人がおりません。少し寂しく感じられます。実はこの春から千数百名の学生が、このキャンパスを歩き回っており、大変大学らしくなったと思います。大堀先生がお話しになられましたように、外は外で緑豊かなキャンパスになっております。

是非先生方には、このすばらしいキャンパスをご覧頂きたいと思っております。

全国にさまざま医科、歯科、薬科、その他の複数の学部を持つている大学があります。しかしながら物理的に離れているため学部間の連携が難しいのが現状です。本学は同じ一つのキャンパスに三学部が共存し、更には学部毎の研究棟や講義実習棟はあえて作らず、東・西研究棟、東・西講義実習棟として三学部を混在させて運用しています。学部の垣根のない連携教育、研究、診療を実践しています。

この様に、医学部、歯学部、薬学部を越えて、また各講座を越えて連携した教育と研究と診療を行うという意気込みで新しいコンセプトで造られております。日本の大学でも、あるいは世界の大学でもこのようなコンセプトで造られている大学はほかにないと思っております。そういう意味では、壮大な社会実験をしているのではないかと思っております。いずれ最終的には教員の皆様の意識改革まで進みませんとせつかくこの新しいコンセプトで作った建物も生きてきません。この点につきましても大学挙げて努力して行く所存です。

主陵会の皆様には今後とも大学の運営にいろいろご助言をいただきますとともに、さらにご協力を賜りますことをお願い申し上げます。ご挨拶にかえさせていただきます。

どうもありがとうございます。

東日本大震災に伴う圭陵会の対応

このたびの東日本大震災で被災されました皆様には心よりお見舞い申し上げます。

また、一日も早い復興と、皆様方のご健康をお祈り申し上げます。

圭陵会では、東日本大震災により被災されました会員の皆様にお見舞いをいたしたく、義援金を募る活動を実施致しました。会員の皆様におかれましては、その趣旨にご賛同いただき、たくさんのご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

寄せられましたご厚志の義援金は7月下旬より、被災されました会員の皆様にお送りを開始いたしましたことをご報告させていただきますとともに、東日本大震災に伴います圭陵会の対応について、ご報告致します。

なお、圭陵会では、今後とも被災されました会員の援助につきまして引き続き取り組んでまいります。皆様のご協力をお願いいたします。

圭陵会

1. 東日本大震災発生後における対応等

- (1) 震災直後より各地からの問い合わせ・激励を賜った。
併せて、多くの会員の皆様よりいただいた情報そして新聞記事等の提供は、圭陵会として大きな力となりました。
- (2) 会員の安否確認、情報収集に努めた。
- (3) 圭陵会・医学部同窓会・歯学部同窓会の諸会議の延期を決定し、その後順次会議の日程を調整・設定した。
- (4) 義援金の受付を開始した。
- (5) 詳細な被災状況について把握作業を行い、その結果に基づき義援金の支給について具体的な検討を加えることとした。
- (6) 圭陵会々報4月号について
圭陵会々報(当初は4月8日発行予定)は、4月26日に発行した。
なお、4月号の記事は従前通りを基本とし、被災のお見舞い・義援金等については「4月号別冊」の発行での取り組みを行った。

2. 会員の被災状況(平成23年9月6日現在)

- (1) 逝去された方(医学部5名、歯学部4名、計9名)
専14期 齋藤瑞磨先生(気仙沼支部)
医4期 渥美進先生(釜石支部)
医12期 田中仁先生(宮城県石巻支部)
医23期 佐藤幸弘先生(宮城県石巻支部)
医32期 村上静一先生(気仙支部)
歯2期 村上德行先生(気仙支部)
歯6期 黒沢恒平先生(相双支部)
歯10期 佐伯厚夫先生(気仙支部)
歯24期 高間木祐一先生(宮城県石巻支部)
- (2) 行方不明の方(医学部1名)
医18期 熊谷維克先生(宮古支部)
- (3) 診療所・住居等の被災状況(原発被害含む)
 - 1) 圭陵会会員
全壊者82名、半壊者73名、一部損壊者368名。計523名。
 - 2) 圭陵会準会員(学部学生)
保護者(両親)死亡3名、実家が全壊・半壊56名。計59名。
- (4) 被災者総計 ((1)+(2)+(3)) 592名

3. 圭陵会東日本大震災義援金について

(1) 圭陵会義援金について

- 1) 義援金募集の開始；平成23年3月18日(金)
圭陵会HPに掲載、また支部長へのFAXにより開始した
圭陵会々報4月号発送の際、義援金のお願いと払込用紙を配布。
- 2) 応募期間；平成23年6月30日(木)まで
- 3) お見舞金について；被災された会員に対し、お見舞い金を差し上げる。
その詳細については、圭陵会本部で協議し決定する。
- 4) 義援金の募金状況(平成23年9月6日現在)
566件(個人463件、支部23件、学生父兄77名、その他3件)
募金総額 43,358,500円
- 5) 今後の対応(平成23年4月14日圭陵会常任幹事会審議)
 - ① 義援金の振り分けについては、国等の動向、医学部・歯学部同窓会の義援金の対応、大学・大学父兄会の対応、併せて圭陵会阪神・淡路大震災義援金も参考としながら、その具体的な方法を検討する。
 - ② なお同検討にあたっては、被災された会員の把握等の問題もあり、急ぐことなく検討を加えるべきであるということから、幹事数名による検討を行い、その検討内容を7月初めに予定されている常任幹事会・幹事会で協議することとした。

(2) 医学部同窓会・歯学部同窓会等の義援金について

医学部同窓会・歯学部同窓会の各同窓会の各支部に特化した義援金、又岩手医科大学の義援金の公募がされている。

* 各同窓会の義援金の募金状況(平成23年9月6日現在)

医学部同窓会	4支部	2,800,000円
歯学部同窓会	24支部	10,508,182円

4. 圭陵会東日本大震災義援金の配分について

(平成23年7月8日開催 圭陵会常任幹事会・幹事会にて承認)

義援金総額(平成23年9月6日現在) 43,358,500円

(1) 義援金配分

- 1) 圭陵会会員(会員計533名、義援金配分額 計3,306万円)

死亡・行方不明者	10名、1人当たり	20万円。	計	200万円
全壊者	82名、1人当たり	20万円。	計	1,640万円
半壊者	73名、1人当たり	10万円。	計	730万円
一部損壊者	368名、1人当たり	2万円。	計	736万円
- 2) 圭陵会準会員(学部学生)(準会員計59名、義援金計118万円)

保護者(両親)死亡	3名、1名当たり	2万円。	計	6万円
全壊・半壊・原発被害	56名、1名当たり	2万円。	計	112万円
- 3) 義援金配分総額(1)+2) 592名、3,424万円
* 9月6日現在、1支部の医学部圭陵会員の被害状況が確認できていない。

(2) 義援金の支給について

支援を出来るだけ早くという観点より、被災状況が確認できている支部の死亡・行方不明者、全壊者、半壊者に7月下旬より支給した。

その後、被害状況が判明した支部の全壊者、半壊者にも順次支給する。

なお、一部損壊者については全ての支部等の状況が把握できた時点で支給を行う。その場合、一部損壊者については、一部損壊者数又今後の義援金の払込状況によっては、義援金の額が変更となる場合がある。